

2022 (令和4)年度東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

言語研修生募集要項

ILCAA Intensive Language Courses 2022

言語研修について

この研修はアジア・アフリカ言語文化研究所が研究者養成事業の一つとして開催しているもので、アジア・アフリカ地域での現地調査・研究や専門的業務に役立つ現地語の習得を目的としています。日本の専門研究者と母語話者が講師を務めます。

大学在学学生、大学卒業者または上記の目的に必要な学力及び動機をお持ちの方であれば、ご応募いただけます。

募集言語について

アゼルバイジャン語、ブリヤート語

各言語の研修期間、研修時間など、研修内容についての詳細は、それぞれのページをご覧ください。コロナウィルスの感染状況、または、社会情勢の変化によりネイティブ講師の来日が不可となった場合、ネイティブ講師はオンラインで参加します。その場合、開催時間が変更となる可能性があります。

募集定員について

各言語 約10名（当研究所で書類審査により選考します。）

募集期間について

募集期間：2022年6月1日（水）～ 2022年6月22日（水）

持込みの場合、受付時間は以下のとおりです。

午前9時30分～午後5時（正午～午後1時を除く、また土日を除く。）

郵送の場合は、6月22日（水）必着です。

Eメールの場合は、6月22日（水）日本時間午後5時必着です。

[主催／企画] 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 <http://www.aa.tufs.ac.jp/>

応募方法について

所定の受講申込書に必要な事項をご記入の上、在学証明書または最終学校の卒業証明書(写)を添えて、お申し込みください。

※申し込み方法は、直接持ち込み、郵送、Eメールのいずれかとします。

※申込書に記入いただくEメールアドレス宛に選考結果通知のPDFをお送りしますので、

ilcaa-ilc@tufs.ac.jp からPDFファイルが受信できるアドレスをご記載ください。

※郵送の場合は、封筒の表に「言語研修〇〇語申し込み」と朱書き願います。Eメールでの申し込みの際は件名を「言語研修〇〇語申し込み」としてください。

受講申込書送付先および各種問い合わせ先について

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所2階206室
研究協力課共同研究拠点係
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610
Email ilcaa-ilc@tufs.ac.jp

選考結果について

受講の可否は、7月下旬に本人あてにEメールにて通知します。

受講手続きについて

受講を許可された方は、所定の期日までに、研修言語ごとに定められた額の受講料を一括納付してください。
受講料等は各言語ごとに異なりますので、それぞれのページをご覧ください。
受講料振込先情報および振込期日は、選考結果通知に記載してあります。
口座振込に係る手数料はご負担ください。

授業の実施方法について

十分な感染防止対策を取った上で原則として対面で行います。
新型コロナウイルス感染拡大の状況によってはオンライン授業に切り替える場合があります。
(判断は原則として研修の1週間前までに行いますが、急激な感染状況の変化が生じた場合はその限りではありません。)

研修中は機械換気による常時換気を行うとともに必要に応じて窓開けを行います。
また通常の研修と異なり受講生の皆様には以下の事柄をお願いいたしますので、ご承知おきください。

- ・研修中は原則として常にマスクを着用していただきます。
- ・講師と受講生は十分な距離を取って研修を行います。そのため、発音練習・会話練習などでは必要に応じて卓上マイクをご利用いただきます。
- ・休憩時間・食事時間は講師・各受講生の間に十分な距離を取ってお過ごしいただきます。食事時の会話はなさないようお願いします。
- ・その他の感染防止対策についても随時講師の指示に従っていただきます。

修了要件と修了証書について

研修言語ごとに定められている授業時間数の3分の2以上出席し、かつ所定の成績を収めた受講者に修了証書を交付します。

文化講演について

研修期間中、文化講演として、担当講師以外の外部講師を招いた授業を取り入れています。
文化講演は一般向けに公開することがあります。

受講までの流れについて

受講申込



郵送、Eメール、直接お持込にてお申込みください。

確認メール送信



郵送またはEメールにてお申込みいただいた方には、受付確認メールをお送りいたします。

選考結果通知をメール送信



選考を通過された方には、受講料等の振込先および、初日の集合時間等についても、あわせてご案内いたします。

受講料振込



通知書に記載された期日までに、受講料等をお振込みください。振込手数料は自己負担となります。

受講料振込確認メール送信



期日までにお振込が確認できない方には、事務局から確認メールをお送りします。

研修に関する連絡をメールにてお知らせ



各言語ごとにメーリングリストを作成し、必要に応じて、研修に関するご連絡を差し上げます。

研修開始



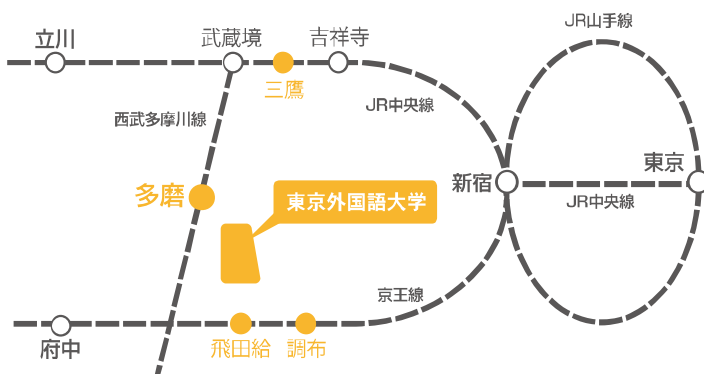
受講上の注意について

- 会場には駐車場はありません。受講時は公共交通機関をご利用ください。
- 本研修の受講生は正規の学生ではありませんので、学割定期券の購入はできません。
- 宿泊施設については、ご自身でご手配くださいますようお願いいたします。

研修会場について

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610

AA研へのアクセス



- JR中央線「武蔵境駅」から西武多摩川線に乗り「多磨駅」で下車(所要5分)。駅から徒歩5分。 ※西武多摩川線は12分間隔。
- JR中央線「三鷹駅」から小田急バス鷹52系統に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要30分)。停留所から徒歩2分。
※小田急バス時刻表:
<http://www.odakyubus.co.jp/cgi-bin/search/mapsearch.cgi>
- 京王線「飛田給駅」から京王バス飛02系統・調33系統(いずれも多磨駅行き)に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要7分)。停留所から徒歩2分。
- 京王線「調布駅」から京王バス調33系統(多磨駅行き)に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要20分)。停留所から徒歩2分。
※京王バス時刻表:<http://www.bus-navi.com/>



※ アジア・アフリカ言語文化研究所は6番の建物です

アゼルバイジャン語

》 初学者向け

》 東京会場

》 日本語での授業

アゼルバイジャン語は南コーカサス地域に位置するアゼルバイジャン共和国の公用語（北アゼルバイジャン語）、およびイラン北西部で使用されている言語（南アゼルバイジャン語）の総称です。言語系統としてはチュルク諸語南西語群（オグズ語群）に属し、トルコ語、トルクメン語といった言語と近い関係にあります。特にトルコ語との類似性が度々強調されますが、アゼルバイジャン語独自の文法や語彙体系ももちろん存在します。そのため、アゼルバイジャン語の運用にあたってはこれら同じ語群に属する言語とは別に学習をする必要があります。

本研修で学ぶアゼルバイジャン語は、アゼルバイジャン共和国の公用語である「北アゼルバイジャン語」です。現行のラテン文字アルファベットによる表記法をもとに、発音から接続詞を用いた複文構造まで、初中級レベルの文法の習得を目指します。また、現地でのコミュニケーションに必要な語彙の習得、実践的な会話の練習も行う予定です。

研修の対象者について

本研修では、受講者に対してトルコ語など他のチュルク諸語の知識等を特に前提としません。ただし、本研修後関連地域および関連領域について研究を推進する予定のある方を優先的に受け入れます。当該地域、言語に関心が強く、かつ意欲的な方のお申し込みを歓迎いたします。

研修内容について

本研修では文字と発音の習得からスタートし、最終的には複文構造を理解し、アウトプットできるようになるまでの言語能力の習得を目指します。より具体的には、

- (i) 正確な発音や韻律を身につけ、現地でのオーラル・コミュニケーションができるようになる
 - (ii) 初中級レベルの文法知識を習得し、辞書があればほぼ全ての文献読解が可能となる
 - (iii) 場面に応じて適切な定型表現を身につけている
 - (iv) 日常生活に最低限必要と思われる語彙を習得している
- 以上の4項目の習得を目標とします。

テキストについて

担当講師作成のテキストを使用します。



研修期間および研修時間について

2022年8月22日(月)～2022年9月13日(火) 85時間(文化講演含む)
午前10時00分～午後4時30分(土曜日、日曜日は休講)

文化講演について

実施予定。詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします。
<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2022>

受講料について

62,400円(教材費込み)

講師プロフィール

吉村 大樹(東京外国語大学AA研フェロー)

1977年長崎県出身。大阪外国語大学外国語学部地域文化専攻(トルコ語)卒業、同大学院言語社会研究科国際言語社会専攻修了、神戸市外国語大学大学院博士課程文化交流専攻単位取得退学。大阪大学世界言語研究センター特任助教、アンカラ大学言語歴史地理学部日本語日本文学科講師を経て、2020年より現職。また2021年度より、TUFSオープンアカデミー(トルコ語)講師も務めている。専門は言語学、チュルク語学。



Kamala Gülieva(カマラ・グリエヴァ)

1991年アゼルバイジャン生まれ。バクー国立大学東洋学部地域研究学科(日本学)卒業、同大学大学院東洋学研究科言語学専修(日本語)修了。アゼルバイジャン国内を中心に、ロシア語・アゼルバイジャン語・日本語の通訳業に従事、国際スポーツ大会での日本語通訳なども務めた経験がある。アゼルバイジャンでの日本語教育の経験もあり、現在も日本語講師として活動している。専門は言語学、日本語教育。



ブリヤート語

》 初学者向け 》 東京会場 》 日本語・英語での授業

ブリヤート語はおもにロシア・バイカル湖周辺で話される、モンゴル語族の言語です。モンゴル語族のなかでもっとも話者の多いモンゴル語と非常に近い関係にあり、モンゴル語ブリヤート方言として分類されることもあります。ロシア連邦内のブリヤート共和国でロシア語とともに公用語に制定されているほか、同じくロシア連邦ザバイカリエ地方、イルクーツク州、モンゴル国ドルノド県、ヘンティー県や中国内モンゴル自治区フルンボイル市などに、合計で推定約20万人の話者が暮らしています。ただしブリヤートを自称する人の中にはブリヤート語を母語としない人もおり、数世代後にはさらに話者が減ることが予測されています。

ブリヤート語は東西の方言差・文化背景が大きく異なっています。すべての方言をカバーすることは難しいため、本研修ではブリヤート共和国で正書法が定められているブリヤート語ホリ方言を学びます。

この地域の研究を行う際には、基本的にはロシア語を調査言語として習得することが要求されますが、ロシア語のみでは一方的な理解にとどまるおそれがあります。さまざまな角度から対象をとらえるには、ブリヤート語の理解も重要となってきます。本研修がその一助となるよう講師一同努力いたします。

研修の対象者について

さまざまな言語を学びたいという人でなく、ブリヤート語使用地域での言語・文化・歴史等の地域研究に今後従事したいと考えている方を対象者とします。モンゴル語を理解していると学習しやすいですが、モンゴル語学習歴は問いません。

研修内容について

ブリヤート語の発音・文法の一通りの事項を習得することにより、研修終了時点で辞書を用いることでブリヤート語の読解・会話がある程度できるようになるレベルを目指します。日本人講師は文法解説、ネイティブ講師が発音・会話の練習等を主として担当します。

テキストについて

担当講師作成のテキストを使用します。



研修期間および研修時間について

2022年8月22日(月)～2022年9月9日(金) 75時間
午前10時00分～午後4時30分(土、日は休講)



文化講演について

実施予定。詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします。
<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2022>

受講料について

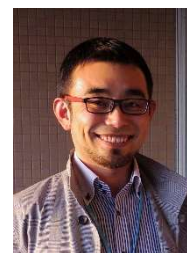
45,000円(教材費込み)



講師プロフィール

山越康裕(やまこし やすひろ)

現職:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授
札幌学院大学人文学部講師・准教授を経て2014年4月より現職。
中国内モンゴル自治区北部をフィールドに、ロシアから移民した
ブリヤートの人々が使用するシネヘン・ブリヤート語はじめ、モン
ゴル諸語の記述的研究に従事している。



Zhargal Badagarov (ジャルガル バダガロフ)

現職:ハイデルベルク大学歴史学部PDフェロー
ブリヤート国立大学准教授等を経て2018年4月より現職。現在は
法律文書の文献学的研究プロジェクトに従事している。ブリヤート
国立大学ではブリヤート語はじめモンゴル諸語の講義を担当し、
とくに消滅のおそれのあるブリヤート語の保存と再活性化運動に
も取り組んでいる。

